

作成日：2026年 3月23日

安全データシート

整理番号：404

1. 製品名及び会社情報

製品名 : ミラキープAg+
会社名 : 株式会社セハージャパン
住所 : 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-4
担当部門 : 営業部
電話 : 03-3525-7081
ファックス : 03-3525-7089
緊急連絡先 : 同上
推奨用途及び使用上の制限 : 環境表面の衛生管理

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール : 区分2

健康に対する有害性

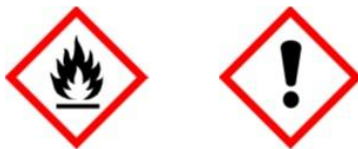
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性、麻酔作用)

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 可燃性エアゾール
高圧容器：熱すると破裂のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
眼刺激
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

<p>静電気放電に対する措置を講ずること。</p> <p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。気分が悪いときは医師に連絡すること。気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。</p> <p>皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。</p>	<p>応急措置</p> <p>保管</p> <p>廃棄</p> <p>他の危険有害性</p>
<p>換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。</p> <p>内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。</p> <p>日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。</p>	

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

組成及び成分情報

成分名（別名）	濃度（重量%）	官報公示整理番号		CAS No.	化学式 又は構造式
		化審法番号	安衛法番号		
エタノール	53 - 58%	(2)-202	既存化学物質	64-17-5	C ₂ H ₅ OH
水	42 - 47%	-	-	7732-18-5	H ₂ O
窒素	0.1 - 1%	-	-	7727-37-9	N ₂

注記：これらの値は製品規格値ではありません。成分の濃度について企業秘密であるものは範囲で記載。

労働安全衛生法・化学物質管理促進（PRTR）法該当成分については、「15.適用法令」を参照下さい。

4. 応急措置

応急措置

応急措置一般	：	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
吸入した場合	：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	：	皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
眼に入った場合	：	水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	：	気分が悪いときは医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状		
症状／損傷	：	眠気又はめまいのおそれ。
症状／損傷 吸入した場合	：	呼吸器への刺激のおそれ。
症状／損傷 皮膚に付着した場合	：	通常の条件下では特になし。
症状／損傷 眼に入った場合	：	軽い眼の炎症。
症状／損傷 飲み込んだ場合	：	通常の条件下では特になし。
医師に対する特別な注意事項		
その他の医学的アドバイスまたは治療	：	対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	：	水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、火災の場合は、泡、粉末、炭酸ガスを使用する。
--------	---	---

使ってはならない消火剤	：	強い水流は使用しない。
火災危険性	：	可燃性エアゾール。 引火性液体及び蒸気。
爆発の危険	：	高压容器：熱すると破裂のおそれ。
火災時の危険有害性分解生成物	：	有毒な煙を放出する可能性がある。
消火方法	：	安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。 呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。 高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。 消火活動は風上より行う。 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。 エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は距離を十分に取る。
消火時の保護具	：	適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。 適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置

一般的措置	：	安全に対処できるならば漏洩を止めること。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。 物的損傷を防止するためにも流出したものを回収すること。 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
-------	---	--

非緊急対応者

保護具	：	推奨される個人用保護具を着用する。
応急処置	：	裸火、火花禁止、禁煙。 出勤は、適切な保護装備を身につけた有資格者に限られる。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

緊急対応者

保護具	：	適切な保護具を着用して作業する。 詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
応急処置	：	不要な職員を退避させる。 安全に対処できるならば漏洩を止めること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	：	環境への放出を避けること。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。 河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。
------------	---	---

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	：	砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。 流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。 可能であればリスクなく漏出をせき止める。 漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
浄化方法	：	製品は機械的に回収する。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
二次災害の防止策	：	着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。 付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。
その他の情報	：	物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : データなし
- 安全取扱注意事項 : 作業所の十分な換気を確保する。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
作業場における製品の放出を避けるため、または最小限にするため、技術的に必要なあらゆる措置をとる。
取り扱う製品数は必要最小限にし、ばく露使用者の人数を最小限に抑える。
部屋の排気および全般的な換気を確保する。
個人用保護具を着用する。
危険エリア内の床、壁、その他の表面は定期的に清掃しなければならない。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
防爆型装置を使用する。

接触回避 : データなし

- 衛生対策 : 作業服と外出着とを分ける。個別に洗う。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

処理時の追加危険有害性 : 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

保管

- 安全な保管条件 : 日光から遮断すること。
換気の良い場所で保管すること。
40℃以上の温度にばく露しないこと。
涼しいところに置くこと。
- 安全な容器包装材料 : データなし
- 技術的対策 : 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
- 容器包装材料 : 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。
- 保護具
- 個人用保護具 : 推奨される個人用保護具を着用する。
- 呼吸用保護具 : (換気が不十分な場合) 呼吸用保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 保護用手袋
- 眼の保護具 : 安全メガネ
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。
- 環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 透明色
- 臭い : 特有臭
- pH : データなし
- 融点/凝固点 : データなし

沸点	: ≥81 °C (lit.)
引火点:	: ~23.5 °C (lit.)
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: 可燃性液体、可燃性エアゾール
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: 0.88 - 0.92 g/cm ³
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
爆発特性	: 高压容器：熱すると破裂のおそれ。
爆発限界	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 可燃性エアゾール。 高压容器：熱すると破裂のおそれ。 引火性液体及び蒸気。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。 エアゾール製品の場合40℃以上になると缶が破裂する恐れがある。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。 酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。
避けるべき条件	: 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。 加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。 燃焼により、一酸化炭素、窒素酸化物、その他低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: データなし
急性毒性（経皮）	: データなし
急性毒性（吸入）	: データなし
（エタノールとして）	: LD50 経口 6200mg/kg LD50 経皮 20000mg/kg
（窒素として）	: LC50 吸入 ラット 80000ppm
皮膚腐食性/刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 眼刺激
呼吸器感作性	: データなし
皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 眠気又はめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: データなし

誤えん有害性 : データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性 : 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。

(エタノールとして) : LC50 魚 [1] 11200 mg/l
EC50 甲殻類 [1] 5463 mg/l
ErC50 藻類 1000 mg/l
NOEC 甲殻類 慢性 9.6 mg/l

残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

その他の有害な影響 : 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。特に製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

1 3. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。
エアゾール製品の場合は、焼却処理を行わないこと。
エアゾール製品の場合は、中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いてから捨てる。
中身の入ったものは絶対に廃棄しない。
ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などについて注意すること。

地域の廃棄規則 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

推奨下水処理 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

追加情報 : 空の容器を再利用しない。
引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 : 1950

正式品名 : エアゾール

国連分類 : クラス2. 1 (引火性高圧ガス)

容器等級 : 非該当

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 126

1 5. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 : 非該当

消防法 : 非該当

労働安全衛生法 : 施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3 (エタノール)
規則 別表第2 名称等を表示かつ通知すべき危険物及び有害物
エタノール (含有量 : 55 - 58%)

大気汚染防止法 : 揮発性有機化合物 (法第2条第4項) (環境省から都道府県への通達)

船舶安全法 : 高圧ガス・非引火性非毒性高圧ガス (危規則第2、3条危険物告示別表第1)

航空法 : 高圧ガス・非引火性非毒性高圧ガス (施行規則第194条危険物告示別表第1)

高圧ガス保安法 : 適用除外

16. その他の情報

- 参考文献 : Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN.
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS, UN.
IMDG code - International Maritime Dangerous Goods.
IATA 航空危険物規則書。
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT).
TLVs and BEIs. (ACGIH).
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)。
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)。
Supplier's data/information.
OSHA Hazard Communication Standard 29 CFR 1910.1200 (HazCom 2012).
- 記載内容の取扱い : このSDSは、JIS Z 7253 (2019) に準拠して作成しています。
記載内容は入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、記載のデータや危険、有害性の評価に関してはいかなる保証をなすものではありません。又、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。
記載された注意事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、ご使用者の責任において、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。
すべての化学物質には未知の危険性、有害性が存在するという認識で、開封から保管、廃棄に至るまで、細心の注意を払ってご使用ください。
本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。